

東京外国語大学オープンアカデミー教養講座（後期開講講座）

# 言葉とその周辺をきわめる

## - 3 -

期 間：2014年10月7日～11月11日（毎週火曜日）19:00～20:30

会 場：東京外国語大学 本郷サテライト

受講料：9,270円（全6回分）

受講者募集：9月3日（水）～ ※開講後のお申し込みは受け付けません。

申し込み方法：所定の「受講申込書」にてE-mail、FAX、郵送のいずれか。

お申し込み：8月中旬以降、オープンアカデミーの

Web サイトにてお知らせします。

<http://www.tufs.ac.jp/common/open-academy/>



日程	講師	タイトル
10月7日	野元裕樹	マレーシア・シンガポールの言語
10月14日	加藤晴子	「中国語好み」の表現 — 名詞的表現と動詞的表現
10月21日	大島 一	ハンガリー語：日本語と似ているところ、違うところ
10月28日	長屋尚典	フィリピンの言葉は繰り返す
11月4日	匹田 剛	ロシア語と日本語の出会い
11月11日	高垣敏博	スペイン語のバリエーション — 接触する言語と文化

平成26年度

東京外国語大学オープンアカデミー教養講座（後期開講）

「言葉とその周辺をきわめる」

-3-

企画：東京外国語大学 語学研究所

## ご案内

---

このたび語学研究所では「言葉とその周辺をきわめる -3-」をテーマに公開講座を企画・開講することとなりました。

この講座では、言葉の単なる入門ではなく、講師自身が研究上興味を持って追究していること、フィールドワークのこと、言葉にまつわる事情などを、講師それぞれのこだわりを持って独自の切り口で言葉の魅力を探ります。地球上のさまざまな地で言葉の魅力を追う言語学者の情熱に接してみるのはいかがでしょうか。言語学等の専門知識、学習経験は特に必要としません。広く言葉に関心のある方のご参加をお待ちいたしております。

## 日程・講師

---

- |     |           |  |
|-----|-----------|--|
| 第1回 | 10月7日(火)  | 「マレーシア・シンガポールの言語」<br>野元裕樹 東京外国語大学講師                                      |
| 第2回 | 10月14日(火) | 「中国語好み」の表現 一名詞的表現と動詞的表現<br>加藤晴子 東京外国語大学教授                                |
| 第3回 | 10月21日(火) | 「ハンガリー語：日本語と似ているところ、違うところ」<br>大島 一 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究員、<br>本学非常勤講師 |
| 第4回 | 10月28日(火) | 「フィリピンの言葉は繰り返す」<br>長屋尚典 東京外国語大学講師  |
| 第5回 | 11月4日(火)  | 「ロシア語と日本語の出会い」<br>匹田 剛 東京外国語大学准教授  |
| 第6回 | 11月11日(火) | 「スペイン語のバリエーション —接触する言語と文化」<br>高垣敏博 東京外国語大学教授                             |

- いずれも火曜日、19:00～20:30（質疑応答を含む）
- 専門知識・予備知識は必要ありません。
- 教材は各回ごとに配布します。教材費は不要です。
- 6回全回受講された方には最終回に受講証書を授与します。ぜひ全回御出席ください。
- 毎回教室入り口の受付において出席を取ります。
- 記録保存のために、セミナールーム後方から講演の様子を撮影させていただきます。どうかご了承ください。

## 会場

東京外国語大学 本郷サテライト 7階 (会場が変更になりました)

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-14-10 (駐車場はございません)

<http://www.tufs.ac.jp/access/hongou.html>

- 都営バス： 本郷二丁目停留所 徒歩1分
- 東京メトロ丸ノ内線： 本郷三丁目駅 (M21) 2番出口下車徒歩3分
- 都営地下鉄大江戸線： 本郷三丁目駅 (E08) 5番出口下車徒歩4分
- 都営地下鉄三田線： 水道橋駅 (I11) A1出口下車徒歩6分
- JR線： 御茶ノ水駅 お茶の水橋口下車徒歩7分



## お問い合わせ先

東京外国語大学

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

受講申込みについては...

⇒⇒ 総務企画課

Tel : 042-330-5823 / Fax : 042-330-5140 / E-mail : [tufs-openacademy@tufs.ac.jp](mailto:tufs-openacademy@tufs.ac.jp)

ホームページ : <http://www.tufs.ac.jp/common/open-academy/index.html>

講座の内容については...

⇒⇒ 語学研究所

Tel : 042-330-5407 / Fax : 042-330-5408 / E-mail : [ilr419@tufs.ac.jp](mailto:ilr419@tufs.ac.jp)

ホームページ : <http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/index.html>

## 各回の概要

---

### 第1回 10月7日 (火)

「マレーシア・シンガポールの言語」

講師：野元裕樹 東京外国語大学講師

東南アジアの国々が一般的にそうであるように、マレーシア・シンガポールも多民族・多言語国家です<sup>※</sup>。その中で、両国に特徴的なのは、植民地化や移民を通じて、かなり異なる種の人々や言語が共存する点です。言語の系統（＝親族グループ）で言えば、オーストロネシア語族（国語のマレー語に代表される地域固有の諸言語）、オーストロアジア語族（半島マレーシア原住民の言語）、シナ・シベット語族（華語諸語）、ドラヴィダ語族（タミル語など）、インド・ヨーロッパ語族（英語など）が存在します。

この講座では、まず、これら多種多様な言語がどのような経緯でマレーシア・シンガポールに存在しているのかという言語状況についてお話します。その後、いくつかの項目について、各語族の代表的な言語の特徴を簡単にご紹介します。

※東南アジア全体の言語状況や言語の特徴については、以下の書籍の第 VI 部が参考になります。

今井昭夫（編集代表）、東京外国語大学東南アジア課程（編）『東南アジアを知るための50 章』明石書店。

<http://www.akashi.co.jp/book/b177263.html>

---

### 第2回 10月14日 (火)

「中国語好み」の表現 一名詞的表現と動詞的表現」

講師：加藤晴子 東京外国語大学教授

ひとつの事柄を表すのにいくつかの表現方法が可能な場合でも、言語によってより好まれる表現があるようです。例えば、次の(1)と(2)では、どちらがより好まれるか、という問題です。

- (1) 富士登山を記念して、私たちは何枚か写真を撮った。
- (2) 富士山に登ったのを記念して、私たちは何枚か写真を撮った。

日本語では(1)が選ばれることが多いのではないのでしょうか。中国語では(2)のほうが選ばれます。「富士登山」と名詞的表現にするか、「富士山に登った」と動詞的表現にするかの違いですね。

この他にも中国語では動詞、動詞的表現を日本語よりも好んで用いる例が見られますが、それらは単に「好み」で選ばれているのではなく、SVO を基本語順とし、格助詞を持たない、明示的に時制を示す形式を持たないなどの、中国語の言語的性格からくる理由によって選ばれている可能性があります。

本講座では、このような、表現面での日中対照およびそれと関連する文法上の性質といった話題を展開していきたいと思います。

### 第3回 10月21日 (火)

「ハンガリー語：日本語と似ているところ、違うところ」

講師：大島 一 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究員、本学非常勤講師

ハンガリー語はヨーロッパの中央にある国、ハンガリーで話されている言語ですが、周辺の国々で話されているヨーロッパの言語の系統であるインド・ヨーロッパ語族と異なり、ウラル語族フィン・ウゴル語派に属する言語です。言語の系統が異なるということは簡単にいうと互いの文法的特徴がずいぶん違うということになります。同様に、日本語とヨーロッパの言語、例えば英語やドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語などを比べると、それは大変異なるものであることは一目瞭然です。したがって、日本語とハンガリー語はヨーロッパの言語から見れば異なるもの同士といえます。

この異なるもの同士にはよく似ている文法的特徴もありますが、似ていないところもあります。似ているものでは、日本語の助詞（てにをは）に相当するものがハンガリー語にもあります。一方、似ていない点を挙げると、日本語ではよく使う受け身文ですが、ハンガリー語では同様の受け身文を使いません。こうした相違点を解説しながら、ハンガリー語の文法について深く考えていきたいと思います。

---

### 第4回 10月28日 (火)

「フィリピンの言葉は繰り返す」

講師：長屋尚典 東京外国語大学講師

フィリピン共和国には 200 近くの言語が話されているとされ、そのほとんどはオーストロネシア語族というグループに属しています。このグループの言語は 1200 言語を超え、北は台湾、南はニュージーランド、西はマダガスカル島、東はイースター島まで幅広い地域で話されています。

公開講座の第 4 回では、このオーストロネシア語族の言語のうち、フィリピンで話される諸言語をとりあげ、フィリピンの言語状況や文化などを概観した後に、タガログ語を中心に文法的特徴を紹介します。

そのうえで、フィリピンの言語に特徴的に見られる「重複」(reduplication) と呼ばれる文法現象に注目します。重複とは語の全部または一部を繰り返すことで新しい意味や機能を語に加えることです。日本語でも「山」から「山々」ができるように重複は使われますが、フィリピンの言語の重複はもっと体系的で文法的な機能を持っています。たとえば、タガログ語では、baba「下がる」から ba~baba「下がるだろう」、baba~baba「ちょっと下がる」などのような語形が派生できます。繰り返すといっても、語のどの部分を繰り返すか、そして、どのような意味を持つか、さまざまです。その重複のめくるめく世界と一緒に考えていきたいと思います。

## 第5回 11月4日(火)

### 「ロシア語と日本語の出会い」

講師：匹田 剛 東京外国語大学准教授

ロシアはしばしば我々日本人にとって「遠くて近い国」と呼ばれます。確かに、日本にとって地理的に最も近い外国はロシアで、その国境付近には様々な接触の歴史がある一方で、ロシアはそもそもヨーロッパの民族で、ロシア語はヨーロッパの言語です。外交上の関係を抜きに考えても、ロシアは東北アジアに暮らす日本とは遙かに遠く離れたところにいる民族のはずです。その遠く隔たれた二つの民族、二つの言語はどのようにして出会ったのでしょうか。日露の接触は日本が鎖国中の17世紀の末頃に徐々に始まり、当初の接触は正規のルートによるものではなく、日本人の漂流民とロシア人の探検家によるものでした。今回は、漂流民の冒険という「イレギュラー」な形で始まった日露の初期の接触史と、そのわずかな接触から少しでも多くを学び取ろうとする先人達の手探りではじめたロシア語とロシアに関する研究の我が国における夜明けについてお話いたします。

---

## 第6回 11月11日(火)

### 「スペイン語のバリエーション —接触する言語と文化」

講師：高垣敏博 東京外国語大学教授

スペイン語は23の国と地域で、4億をこえる人々により話されるいわばグローバルな言語です。スペインのほか南北アメリカの広い地域などで用いられ、バリエーションを見せています。このようなスペイン語の語彙や文法の変異についてのアンケート調査についてフィールドワークの様子なども含めてお話します。また、スペイン国内に共存する3つの言語、ラテンアメリカの先住民語、アメリカ合衆国の米語などとの接触とその影響などについても考えてみたいと思っています。